

平成三十九年度

八戸学院大学短期大学部 一般入学試験（第Ⅱ期）

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用すること。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたときは、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
5. 解答はすべて解答用紙に記入すること。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

電子メールが重要なコミュニケーションのaシユダンになって久しい。

笑顔や泣き顔といった絵文字などの感情表現を、多くの人が気持ちを分かりやすく伝えるために使用している。

文化庁が公表した2015年度「国語に関する世論調査」から、①こんな日本人像が浮かび上がった。今年2～3月、全国の16歳以上の男女を対象に実施された調査から、インターネットの利用の仕方や感情を表す表現を見てみよう。

ネットを利用する人は40代以下で97%以上にのぼり、利用の仕方ではメールが最も高かった。情報機器のbフキユウが言葉遣いに影響すると思うという回答は85%以上あった。

絵文字を見たことがあるという回答は85・1%で、使うことがあるという回答は56・1%あった。(笑)(汗)などの表現を見たことがあるという回答は77・1%を数え、使うことがあるのは39・3%だった。絵文字を用いる理由を聞いたところ、気持ちをより分かりやすく伝える、相手への親しさを表す、感情や気分などのニュアンスを加える、が上位を占めたのは注目される。

メールには、顔を合わせず時間をおいて意思Aを図る特性がある。キーボードなどで打つ短文を「打ちことば」と呼ぶ専門家もいる。

日本の田中ゆかり教授(日本語学)は、絵文字など記号類の多用について、cケツラクするニュアンスを補うだけでなく相手へのdハイリヨや自己Bの表現になっているとみる。絵文字を用いるという回答が女性に多いことから、女子の「かわいい文化」が先導役になっているとeシテキする。

英オックスフォード辞典の「2015年を表す言葉」にうれし泣きの顔文字が選ばれた。絵文字が世界に広がっているということだ。

例えば笑う表現をとつても、日本語にはいくつもの単語がある。言葉の感覚を研ぎ澄まし、区別して使える単語を増やさなければ、ぴったりの言い回しはできない。微妙な感情のひだを一つの絵文字で表すことはやはりできないだろう。

さらに、自分の考えや感情を正確に伝える日本語の力を養うことは思考力を深めることにもつながるはずだ。絵文字ばかりに頼っていては、そうした言葉の力は養えない。

今回の調査では、日本語を大切にしていると8割弱が回答した。地域や職場であいさつをし合うときなどに、多くの人が心と心をつなぐ言葉の大切さを感じることも分かった。無料通信アプリ「LINE(ライン)」のスタンプをはじめ、絵文字は今も進化している。新しい文化を大事にしつつ、②日本語の表現力を高めることも心がけたい。

問一 傍線部 a、e のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 空欄 A と B に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 表現    イ 演出    ウ 認識    エ 疎通    オ 表示    カ 顕示

問三 傍線部①「こんな日本人像」の具体的な内容を示す一文を抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問四 次の文が入るべき箇所の直後の五字を抜き出しなさい。

しかし、絵文字は万能ではない。

問五 傍線部②とあるが、筆者がそのように考える理由を文中の言葉を用いて簡潔に説明しなさい。

問六 問題文の表題を一〇字以内で書きなさい。

## 二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本ではどうも、「演じる」ということは、「役になりきる」「のりうつる」といったイメージで捉えられがちだ。もちろんそういった **a** 憑依系タイプの俳優さんもあることはいる。だが、多くの俳優が、①その内面でしている仕事は、そういったものではないだろうと私は考えている。

俳優の本当の仕事は、「普段私は他人には話しかけないけれども、話しかけるとしたらどんな自分だろうか」と探ることだ。すなわち、俳優という自分の個性と、演じるべき対象の役柄の共有できる部分を捜しだし、それを広げていくという作業が求められている。

実はこういった考え方は、教育学の世界でも注目を集めている。これを通常、「シンバーからエンパシーへ」と呼ぶ。エンパシーという英語は **b** ホンヤクが難しいのだが、私は「同情から共感へ」「同一性から共有性へ」と呼んでいる。

この事象のもっともわかりやすい例は、いじめのロールプレイだ。いま小中学校の総合的な学習の時間などで、いじめに関するロールプレイがよく行われている。いじめられる側、いじめられる側を、交互に演じてみようという試みだ。こういった場面でも、経験の浅い教員ほど、「ほら、いじめられた子の気持ちになってごらん」と子どもたちに声をかける。だが、少し考えてもらえばわかると思うのだが、いじめられた子どもの気持ちがすぐにわかるのなら、おそらく、いじめはあまり起らない。

いじめられた子どもの気持ちは、簡単にはわからない。

しかし、いじめっ子の側にも、他人から何かをされて嫌だった経験はあるだろう。②その二つの気持ちを、「それは似たものなんだよ」と結びつけてあげるのが、本来のロールプレイの意味あいなのだ。

シンパシーからエンパシーへ。同情から共感へ。これはいま、他の分野でも切実な問題となっている。

医療や福祉や教育の現場で、多くの有為の若者たちが、「患者さんの気持ちがわからない」「障害を持った人たちの気持ちが理解できない」と絶望感にうちひしがれて、この世界を去っていく。真面目な子ほど、そのような傾向が強い。

患者さんや障害者の気持ちに **A** 化することは難しい。 **B** などは、もつてのほかだ。しかし、患者の痛みを、障害者の苦しみや寂しさを、何らかの形で

**C** することはできるはずだ。私たち一人ひとりの中にも、それに近い痛みや苦しみがきつとあるはずだから。

こういったエンパシー型の教育には、演劇的な手法が大きな効果を示す。なぜなら演劇は元来、異なるコンテキストを抱えた人間が集まって、一定期間内に何かをアウトプットするという営みを繰り返してきたから。

ここで重要なのは、実は「一定期間内に」という点だ。

およそ、どんな共同体でも、このようなコンテキストの摺りあわせを、長い時間をかけて行う。五〇年、一〇〇年とかかって、企業や学校の中だけで通じる言葉や、その地域の中だけで通じる方言などが生まれてくる。

夫婦などはその典型で、最初のうちは異なる文化、異なるコンテキストで育った二人が **c** ショウトツを繰り返しながら、家の中の様々な事象に **D** の名前をつけていく。たとえば電子レンジという家電製品は、「電子レンジ」と呼ぶ家と「レンジ」と呼ぶ家と、そして「チン」と呼ぶ家が必ずある。しかし、二〇年も連れ添った夫婦で、夫はそれを「チン」と呼び、妻はそれを「レンジ」と呼ぶような家は少ない。育った家での呼び名は違っても、長年一緒に暮らすうちにコンテキストの摺り合わせが起こって、共通の呼び名が固定される。

夫婦、家族のような小さな共同体でも、こういったコンテキストの摺りあわせは、ゆっくりと時間をかけて行われる。

しかし、演劇においては、たかだか数週間の **d** 稽古を経ただけで、あたかも家族のように、あたかも恋人同士のように振る舞うことができる。

私たち演劇人は、ごく短い時間の中で、表面的ではあるかもしれないが、③他者とコンテキストを摺りあわせ、イメージを共有することができる。そこに演劇の本質がある。

そして、このノウハウ、このスキルは、これからのエンパシー型の教育に大きな力を **e** ハツキするだろうと私は考えている。ここで言うエンパシーとは、「わかりあえないこと」を前提に、わかりあえる部分を探っていく営みと言い換えてもいい。

（平田オリザ『わかりあえないことから』）

(注) コンテキスト 本来は「文脈」の意。ここでは、もう少し広い意味で「その人がどんなつもりでその言葉を使っているか」の全体像のこと。

問一 傍線部 a e の漢字は読みを平仮名で、カタカナは漢字で書きなさい。

問二 空欄 A D に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 画一 イ 同情 ウ 共有 エ 共感 オ 同一 カ 共通 キ 共同

問三 傍線部①について、それを説明している箇所を五〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問四 傍線部②は何を指しているか。文中の言葉を用いて答えなさい。

問五 傍線部③は、どういうことか。文中の言葉を用いて簡潔に説明しなさい。

三 次の□に漢字を入れて、慣用句を完成させなさい。

- ① 悪事□□を走る (悪い行いはすぐ世間に知れ渡る)
- ② 一事が□□ (一つのことを見れば、他の事もすべて解る)
- ③ □□の霹靂 (突発的な事件。急な変動)
- ④ □□の勢い (勢いが激しくてとどめることができない)
- ⑤ 寄らば□□の陰 (頼るならば、勢力のある者に頼るべきだ)

四 次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。(解答欄に二字記入)

- ① 記者会見でタントウ直入に質問する。
- ② メイキョウ止水の心境になった。
- ③ 危機イッパツで間に合った。
- ④ 何を言ってもバジ東風だ。
- ⑤ コウジヨ良俗に反する行為だ。